



April

4

「東京中央教会に望むこと」

板東 洋三郎

SDA東京中央教会はユニークな教会です。その特長の一つは、幼児から高齢の方々に至るまで、多岐にわたる年齢層の人々が集い活動に参加していることです。近年特に、教会に集う子供や青年の数が増えています。教会は全ての年齢層の人々に関心が向けられる必要があります。教会には、年齢、性別、国籍に関係なく、全ての人が主に仕えるためのスペースがあるべきです。最近のバプテスマに貢献したのは、青年たちであり、年配の方々でありました。神様の働きは、年齢や性別といった人間的な制約によって左右されないという証拠です。

もう一つは、教会員の国際化です。教会では、限られたスペースの中で、異なる言葉の複数のグループが同時に活動しています。青年伝道と同様に、そこには当然、困難や課題も生じますが、大きな可能性もあります。相互の理解と協力の精神で互いの成長に貢献し合っていることは喜ばしいことです。私は、この教会の働きに携わせていただく特権に与った者の一人として、教会が、常に宣教使命を確認し、その遂行において堅実かつ柔軟であってほしいと願っています。それは、主の御言葉の学びと、奉仕とによってのみ可能です。「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」(エペソ4:13)。「今わたしは、主とその恵の言とに、あなた方をゆだねる。御言には、あなたがたの徳をたて、聖別されたすべての人々と共に、御国をつがせる力がある」(使徒行伝20:32)とあるように。

「いっぱいのお恵み・学び・交わり」

板東 クララ

東京中央教会で4年間をすごさせていただいたことを感謝します。いそがしい4年間でしたけれど、たくさんのことをまなばせていただき、またたくさんのお恵みもいただきました。

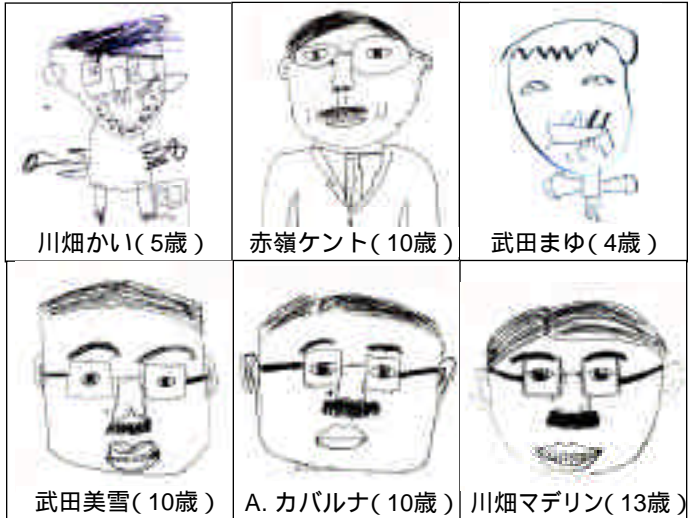
私は毎朝おつとめに出かける前に、聖書の聖句とその感想の読物を読もうとところがけましたけれど、なかなか実行ができませんでした。朝はいそがしいから夜帰ってから読もうと思いましたが、夜もすべき事を終わらせるともう遅いので、早く寝なければ次の朝起きるのが大変。5分早く起きることにしましたけれど、それでも出かけるまではばたばたで時間は残りません。

あるとき、巻き爪のため痛い思いをしました。朝薬を付けて包帯を巻かないことには、靴をはくこともできませんでした。数日後よくなって、包帯はもういらなくなりました。そのあいた時間に、朝の読物を読むことができるようになりました。読み終わったときには、読むことができているよかったです。続けて神様との交わる時間を大切にしたいと思います。また、皆様のお祈りとお支えをこころから感謝します。

板東先生
クララ夫人
ありがとう、お元気で!



→板東先生
協力||小羊クラブ



信州・野尻湖にて(01.12.2) リ・・ジェイリオン博士と(02.1.26) マーク・デュア-ト先生ご一家送別会(02.3.23) ヒュ-ゴ・アロ-先生ご夫妻をお迎えして(02.10.12) 聖餐式。柳沼・園田両長老と(02.12.28) パプテスマ式。中居・岡崎・茂木さんをご紹介(02.9.14) 牧師室の皆さんによる安息日学校特講(02.1.5) 野尻湖でのパプテスマ。芳賀洋さん(01.12.2) 内山アンデレさんご夫妻の誕生(02.10.20) 安息日の午後のひととき。英語学校の平墳さん、シャリ-ン先生(02.8.3) 思い出の写真をバックにクララ夫人、安息日学校の奨励(02.4.20) バザーは真紅のエプロンで(02.10.27) (写真=芳賀洋)



忘れられない光景

渡部 正廣

板東先生ご夫妻、四年間有難うございました。思い出の一コマを申し上げます。

教会バザー開催の前段階では、献品、中古衣料の整理、値段付けがあります。地下二階から地下一階の仕分け会場へ、中古衣料のダンボール箱を運び上げることから作業が始まります。この朝の運搬は、還暦を過ぎた男性方が受け持つことが多くなっていたのですが、何時の頃からか、板東先生もこの運び上げに毎回協力して下さるようになって、大変助けられました。結婚式の当日にも、同様の運搬仕事をお手伝い下さることがありました。ときには二箱も重ねて持たれ、頭が見えず、まるで荷物が歩いてくるようで、びっくりしたこともあります。失礼ですが、少しばかりユーモラスなあの光景は、何時も謙虚で高ぶらず笑顔で皆様に接しておられる奥様のお姿とともに目に焼きついています。

信徒一人を大事にする牧者

柳沼 時影

礼拝後に会堂内で祈りの会を持っていたときの話です。神の全能なる御力が教会に顕れる良い機会であるにも拘らず、その日は三人しか集まらず、祈り人がなかなか増えそうにない雰囲気、心に心悲しさを覚えておりました。ちょうど祈りが始まろうとしたときです。ある姉妹が大きな声で、次週の特別讃美歌の練習を始めました。手をつないでの祈りの声は消され気味で、前の方の声はほとんど聞こえない状態になりました。...と、牧師は、我々の手を握ったまま一同を会堂の後ろ側に導きました。「姉妹の練習の邪魔をしないようにしましょう。私たちはここで祈ればよいのです。傷つきやすい羊の魂を大切になさる牧者の心を感じました。

Hasta Luego! (アスタ・ルエゴ!) **またすぐに
お会いしましょう!** 横山 絢子
先生が中央においでになった夏、「ゴマちゃん

...ゴマちゃん」という声が.....じつはこの名前、去年多摩川や帷子川などに出没して国民的アイドルとなり横浜市の市民権を与えられたアゴヒゲアザラシのタマちゃんのいとこ、ゴマフアザラシに由来していたようです。そんなふうには何時の間にか出没、すーっと馴染んで着任された中央教会はすでに大変複雑な状況でした。

安息日は日本語、英語、ラテングループのメンバーが蜂の巣のように出入りしてます。安息日は牧師先生にとってただでさえ多忙な一日ですが、ここは午後のアクティビティが活発、「あの部屋をあけてください」「延長コードを貸してください」「暖房がきかない」などなど。スペイン語、英語交えて先生ひっぱりだこ...でもどんな時にも焦ることなく、でも小走りに対応していらっしやいました。また以前は、教会の前まで来ても、うろうろする方が多かったのですが、バリアフリーの工事と一緒に大きな十字架を掲げ、日本語・英語・スペイン語で「SDA教会」と大きく表示をして頂いたのもう迷う方はありません。四月から沖縄の青い空の下でのびのびと...ひとまず原宿と中央教会の喧騒から解放された!と、ほっとなさるかもしれません...が...すでに7月末に沖縄ツアーを企画中です。これはミセス、クララさんはご了承済ですので覚悟してお待ちください。God Bless You And Keep You.(民数記6:24~26)

板東先生お父さん、クララお母さんへ

内山・アンデレ・英樹と内山・アンジェラ

私とアンジェラは、板東先生とクララさんを父と母のように思っています。わたしたちは板東先生とクララさんをととてもとても愛しています。ですからいま板東先生とクララさんとはなれてしまうのは、とても悲しくて淋しいです。わたしはアドベンチストになったので、実の両親とは、話しても心が遠くなってしまいました。今は、板東先生とクララさんが誰よりも近い人

なのです。

わたしたちは神様にお祈りします。どこに行ってもいつもかならず神様が板東先生とクララさんをだいに守ってくださいと。

板東先生お父さん、クララお母さん、今までほんとうにお世話になりました。神さまの祝福がいつもいつもおふたりの上にありますように。

(原文のまま)

地の塩

ピーター・J・サルヴァン, Jr.

私どもの秀れた父であり兄でありそして牧者であられる板東先生。先生が教会員一人一人にお会いになるときの接し方には、いわば、さりげなく塩の味をかかせた香料が添えてある、そんな趣があります。イエス様は「あなたがたは地の塩である」(マタイ5:13)と仰いました。私どもが愛してやまない板東牧師と奥様がTICのメンバーに接するときのご様子を見ると、私はキリストのこの御言葉の意味が実によくわかるのです。

牧師としての責務を全うするに際して先生は、誠心誠意、柔和さと謙虚さをもって事に当たられました。私にとって、先生とご一緒に働けるということは、素晴らしい特権です。先生からはとても沢山のことを学ばさせていただきました。先生は私に、柔和で穏やかな人になるにはいかに生きたらよいかを、身をもってお示してくださいました。

もうしばらくの間、ご一緒に過ごしつつ主のためにご奉仕ができればどれほど嬉しいことでしょうか。しかし神様は、他の所で奉仕をするようにと先生を召されました。お別れするのは哀しく寂しいことですが、新たな地でのご奉仕に大なる祝福がありますように、先生を召された主の御名によりお祈りいたします。先生は常に私どもの心の内にあります。大好きな先生に、天来の更なる力が与えられますように。TIC教会員を代表して、御礼とお別れを申し上げます。

(編集部訳)

感謝・感謝・感謝

齋藤 麻美

板東先生、クララさん、4年間ありがとうございました。私の感謝の気持ちはとても言葉では言い表せませんが、少しでもお伝えできたらと思います。

板東先生から2年近く個人的に聖書を教えていただけたことは本当に大きな祝福でした。クリスチャンとしての基本的な聖書の教義を理解できたばかりでなく、神様との個人的な関係をもつことの大切さを知ることができました。私が重要な決断をする時にはいつも先生から貴重なアドバイスをいただき、祈っていただけて嬉しかったです。

クララさんにも本当にお世話になりました。いつも優しく温かい笑顔で接して下さり、様々な面で助けていただいたこと感謝しています。これからのお二人の歩みを神様が豊かに祝福して下さいますよう、心からお祈りしています。

主にあって一つ

国際部牧師 ヒューゴ・アロー、家族一同敬愛する板東先生：

私はまだ、まもなく先生がお薨ちになるということが実感できない、つらい気分の中にあります。しかしまた同時に、「神は、神を愛する者たちにとって万事が益となるようにお働きになる」と確信してもおります。先生が行かれる所ならどこでも、主の御霊は先生をお用いになり、先生のご奉仕によって御名がほめたたえられることを、私は知っています。私とわが家族が先生と一つでいつづける最良の手だては、先生がここ東京中央教会での聖なるお働きの中に常に追求しておられた奉仕の姿勢と、霊の一致を保ち続けることです。私たちはイエス・キリストにあって一つであるようにと招かれたことを常に心に留めておきたいと思ひます。どうか先生の上に天来の豊かな祝福がありますように。

(編集部訳)

バイブル豆事典

「聖書に書かれたぶどう酒 - 2 -」

テモテへの第一の手紙3章3節「酒を好まず、乱暴でなく、寛容であって、.....謹厳であって、子供たちを従順な者に育てている人でなければならない」と、パウロは指導者の要件を書いています。「酒を好まず」という言葉は「酒に近寄るな」という意味です。ペテロの第一の手紙4章7節「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい」の「身を慎んで」という英語の“Be sober”の原語「ネブサテ」には、禁酒という意味があります。終りの時代に、酔っている、精神的にも肉体的にも、祈ることも心確かであることもできません。聖書では発酵しているぶどう酒は判断力を損ない、道徳感、抑制力を弱め、病気を起こすものとされ(箴言20:1、23:31~34、イザヤ28:7~8) レビ記10章8~11節には聖なるものと俗なるものとの区別をつかなくさせるとも書かれています。

一方、テモテへの第一の手紙5章23節には、「これからは、水ばかりを飲まないで、胃のため、また、たびたびのいたみを和らげるために、少量のぶどう酒を用いなさい」とあります。「ぶどう酒」と訳されているパウロのこの言葉は、発酵していない胃にやさしく副作用もないグレープジュースのことです。古代の文献を見ると、ぶどうジュースが感染症や医薬品としても使われていたようです。

当時、アルコールは痛みをおさえるために使用されました。十字架で処刑される人たちへも与えられました。イエス様にも差し出されましたが、イエス様は口にされませんでした。

(サムエレ・バキオキ、米国アンドリュース大学神学部教授 1/26〔日〕他教派の教会から依頼されての礼拝説教より)

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

4月のスケジュール

- 4 / 5(土) [説]長池明夫牧師 & 子供のお話
長池先生ご家族歓迎会 昼食時 集会室
役員会
小羊クラブ 14:00~15:00
グレンジャー先生お墓参り 15:00~
- / 12(土) [説]花田憲彦副牧師
子供野外礼拝
週報&はらじゅくニュース発送
- / 19(土) [説]音楽礼拝 長池明夫牧師
讚美と証の会 昼食後
小羊クラブ 14:00~15:00
理事会 15:00~ 祈りの部屋
- / 26(土) [説]今 勝先生 & 子供のお話

エデン ED園だより

四月は入学、入社の季節です。新しい出発の月。未来に向かって希望溢れる月です。私が尋常小学校に入学した大正末、昭和の初め、当時の学童の服装は着物で、袴でした。父の仕事の関係上私は少しモダンで洋服を着て居りました。校長先生はフロックコート(礼服)で担任の先生は黒紋付の袴姿の入学式を覚えて居ります。早、平成も十五年経ち、大正昭和も遠くなりになりました。時代の移り変わり歴史を感じて居ります。桜と共にそれぞれの年の思い出が沢山。その四月を迎えました。(S.H.)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司
[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517

* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫